

# 慶應義塾大学メディアセンター デジタルコレクション ～連携／利活用と課題～

慶應義塾大学三田メディアセンター  
保坂睦

[mutsumi@keio.jp](mailto:mutsumi@keio.jp)

2020/11/05

ジャパンサーチ正式版公開～書籍等分野の連携及び利活用拡大に向けて  
書籍等分野の連携事例報告③



# 慶應義塾大学メディアセンター

三田、日吉、信濃町、理工、湘南藤沢、芝共立の6キャンパス



第32回慶應義塾図書館貴重書展示会  
「古代中世 日本人の読書」@丸善丸の内本店

# 慶應義塾大学メディアセンター デジタルコレクション

<https://dcollections.lib.keio.ac.jp>

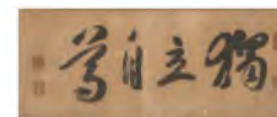
- 三田・信濃町メディアセンター、福澤研究センターが所蔵する資料（福澤諭吉関連、貴重書）を中心とした画像をIIIFに準拠して公開
- 一部はPDF（+くずし字OCR）も提供し、全文検索が可能
- 過去の貴重書展図録も公開開始
- 経常費を中心とした継続的なデジタル化事業

カレントアウェアネス・ポータルの更新ニュース  
 (2020.8.21)

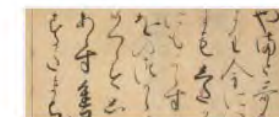
<https://current.ndl.go.jp/node/41801>



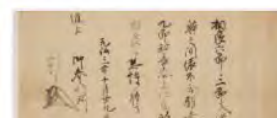
デジタルで読む福澤諭吉



福澤遺墨コレクション



重要文化財



相良家文書



対馬宗家文書



グーテンベルク42行聖書



インキュナブラコレクション



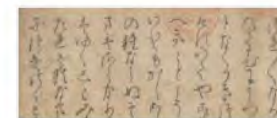
高橋浮世絵コレクション



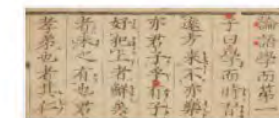
ボン浮世絵コレクション



奈良絵本・絵巻コレクション



国書コレクション



漢籍コレクション



小山内演劇絵葉書



解体新書ほか(解剖学コレクション)



富士川文庫(古医書コレクション)



貴重書展示会図録

# 他機関等との連携

## 1. IIF連携

「富士川文庫デジタル連携プロジェクト試行版」

「顔貌コレクション」

2. メタデータ提供：国立国会図書館サーチ／ジャパンサーチ

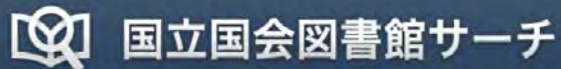
3. 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

4. Google Books / Hathi Trust

5. Google Arts and Culture

富士川文庫デジタル連携プロジェクト試行版

顔貌コレクション(顔コレ)



Google Arts and Culture  
閲覧のみ

ボン浮世絵

画像登載 (重複)

ボン浮世絵

慶應義塾大学  
メディアセンター  
デジタルコレクション  
画像利用時に要連絡

メタデータ (CC0)

NDL  
Search  
/ Japan  
Search

慶應義塾大学メディアセンター  
デジタルコレクションと  
他プラットフォームの関係性  
(2020年現在)

Google  
Books

Public Domain

※福澤関連除き  
タイトル重複なし

奈良文庫

富士川文庫

IIIF経由

登載検討中  
※重複なし

富士川文庫

CC-BY-ND-SA採用  
(国文研資金撮影分)

国文研  
古典籍総合DB

デジタル富士川  
(京大サーバ)

各機関の利用条件に沿う

東大

京大

慶應

# NDLサーチ／ジャパンサーチとの連携

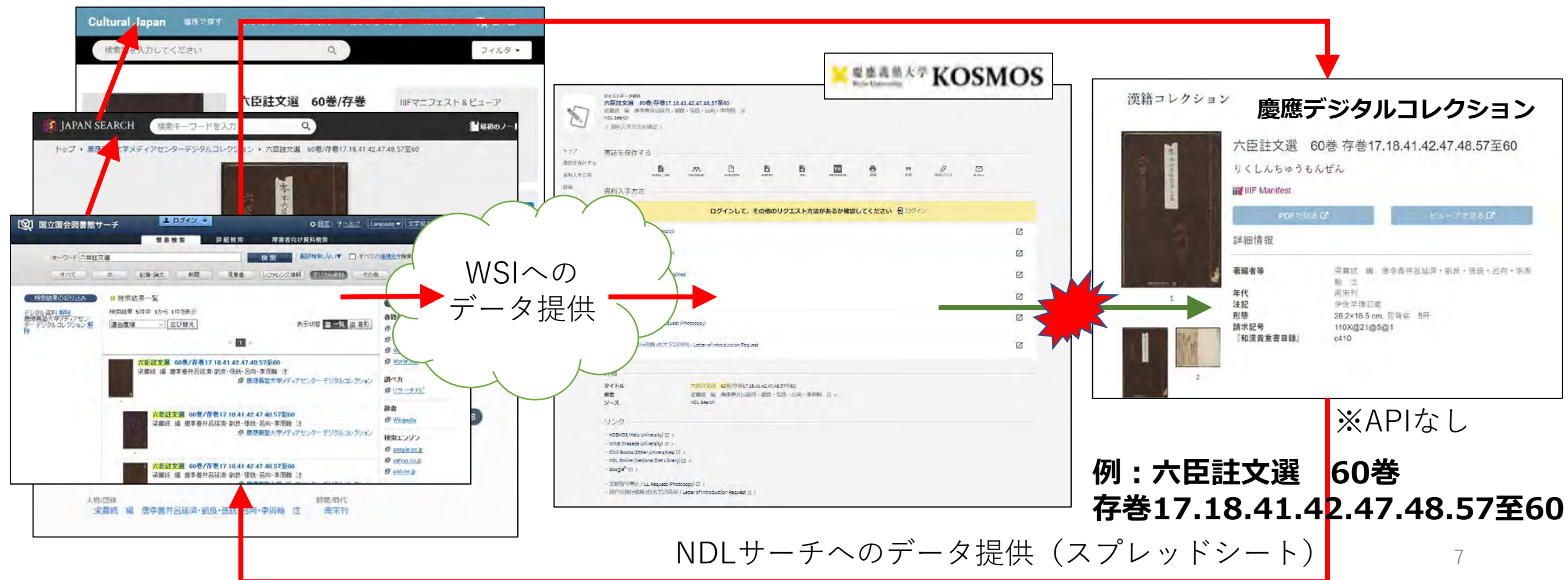
デジタルコレクション搭載コンテンツ  
メタデータをCC0で提供

**「メタデータに著作権はない」** 見解の下、  
アクセスしやすく、流通をスムーズに。

# NDLサーチ／ジャパンサーチとの連携 2

## ウェブスケールインデックス経由の取り込み

KOSMOS（ディスカバリー）への逆輸入試み（途半ば）



# 登載コンテンツの二次利用条件

## コンテンツの利用について

本サイトで公開している画像、音声、動画等のデジタルデータの全部または一部を転載することや、原型に近い複製／加工、もしくはそれに類似した利用を禁止します。画像の利用についてのご質問先については、[Contact](#) を参照してください。

<https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/about>

- 画像利用時には申請が必須  
(Creative CommonsでもPublic Domainでもない)
- 利用時には所蔵情報の表示を条件とする  
「慶應義塾図書館所蔵」など
- 営利利用時は有料

# 二次利用ライセンスを巡る悩みこもごも

- ・信頼のおける＝質を担保した画像を、撮影・管理コストをかけて独自プラットフォームから提供（自資金による撮影）  
著作権は認められない、でも
  - 利活用実態をできるだけ把握したい（予算化時説明に必要）
  - コスト回収までは望まないがせめて所蔵機関を明示してほしい
  - 学内管轄部署の相違：創作者関連画像の無申請利用を避けたい
  - 営利利用側も実は所蔵者の許諾が欲しい？

## 一方で：オープンデータの動き

- ・連携先のプラットフォーム（他資金による撮影）では、資金提供者の意向に沿い Creative CommonsやPublic Domainで提供：整合性／一貫性に欠ける
- ・申請承認はわずらわしい
- ・資料閲覧時や展示期間の個人撮影は許可している（展示時はSNS掲載も可）

# 今後の課題

- トレーサビリティ確保、所蔵機関明示などのニーズをわかりやすく表示できる方法はないか？

ccは「自分が著作権をもつなにか」の利用条件を明示するライセンス、著作権のないものにはそぐわない？

- 資金調達をどうするか、（ある程度の）回収手段はあるのか

撮影費用、公開サーバ維持管理などのコストを恒常的・安定的に維持したい、資料保存の目的も

- 公開時期をどうするか

影印出版や学内研究との兼ね合いで公開時期を調整することもあり、独占 vs 公開

- 発見可能性、ビジビリティの向上

より潤滑なメタデータの流通をめざしたいが、どうやって広げていけばよいか-- 永続性確保、データ公開、、、

- 今後の連携をどうしていくか

連携はしてみよう、その後どうしていくことができるか？